

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 大熊勝明

JR東労組

本部OB会

ニュース

No. 154 2011年2月 発行

OB会は遺志継ぐJR東労組と共に歩みます

追悼
JR東労組初代委員長
松崎明氏



JR東労組15周年記念大会での松崎さん

二〇一〇年十二月九日、二十三日十二分JR東労組初代委員長だった松崎明さんが「特発性間質性肺炎」のため亡くなった。享年七四歳だった。この突然の訃報

に誰もが耳を疑った。本当に悔しさと悲しみで胸がいっぱいだ。特に我々OBは「同じ時代の空気」を吸って生きてきた同世代であるだけに、その気持ちは人一倍強い。松崎明さんは、日本の労働運動に影響を与えてきた多くの指導者の中にあっても、稀に見る卓越した先見性と実践に優れた真の指導者だった。その卓越した先見性は、国鉄時代の動労青年部結成、電車区職場の動労支部結成等、後の闘いの拠点となった組織づくりに見てとれる。

そしてその手腕ぶりが充分に発揮されたのが乱立していた数ある労働組合を統一し、強力なリーダーシップによって組合員の雇用と職場を守った国鉄改革だった。この国鉄改革の勝利こそ「抵抗とヒューマニズム」を基本とした今日のJR東労組の組織と運動を築く礎となったのだ。常に弱い人の立場に立った発想から生まれたJR東労組の運動は「旅のプレゼント」や「中国の小学校建設」「森びとプロジェクト」となって発展している。

また労働組合のチェック機能と政策能力を高めるために「鉄道安全会議」や政策フォーラム」を創り出し、「経営協議会」にも力を入れてきた。そればかりか平和な世の中にするために憲法9条を守る取り組みや「平和研修」の大切さも訴えてきた。また十四年前には、今日の日本の少子高齢化社会の到来を見越してOB会の結成にも尽力された。そして一人ひとりの退職者の小さな声が大きな組織的な力になるようにと『我らの声』の表紙にその願いを込めた一筆がしたためられている。

松崎明さんは、普段から人間味のあるふるふる感受性豊かな人でもあった。それは組合員やOB・家族から慕われていただけではなく、左翼・右翼を問わず、実に多くの有名人とも親交が深かった。それは日本ばかりでなく、海外の著名人とも親交があり、多くの弔意が寄せられたという。

我々OBも、松崎明さんの強力な指導と温かい思い遣りにどれだけ勇気づけられたことか計り知れない。国鉄時代のマル生時でも雇用不安が生じた国鉄改革の時でも、松崎さんの顔を見ただけで不安感は消し飛び、大きな勇気に変わって行ったのも、ついこの間のように思える。

我々OBは、松崎明さんが還暦の祝いの席で「もう一度還暦を迎えるぞ」と言っていたことを憶えている。「この人は本当にそうする人だ」と誰もが信じて疑わなかった。志半ばで亡くなった松崎明さんの遺志と無念さをしっかりと胸に刻み込み、力強く遺志を引き継ぎ前進しよう」と決意しているJR東労組をしつかりサポートし、共に前進することをここに誓う。

OB声の広場

JR東労組の組合員で良かった

◇ JR高崎地本OB会は、平成十年六月にメトロポリタン・高崎において結成されました。当時、東鉄労(現・JR東労組)高崎地本の桜沢副委員長がOB会結成に全力で取り組んでくれました。現在、八〇〇名を超える会員が加入してくれています。

◇ しかし、OB会結成に全力で取り組んでくれた桜沢副委員長、そして東鉄労結成に全力で取り組んでくれた松下委員長の二人は、残念ではありますが、現在亡くなっています。私たち高崎地本OB会は、松下委員長と桜沢副委員長の「教え」を守って、組織の混乱は絶対に起こさないと気持ちで取り組んできました。

◇ 昨年の参議院選挙を振り返ってみたいと思います。その前年の総選挙で、悪政を続けてきた自公政権に対して多くの国民が「これはダメだ」と言ってNOを突き付けて政権交代が実現しました。ところが鳩山内閣発足直後から民主党を非難する動きが活発化してきました。それは鳩山首相と小沢幹事長の政治資金に関する問題でした。また石井一選対委員長(当時)が口利きしたとされる郵便不正事件でもやり玉に挙げられました。そうした民主党のイメージダウンの中での参議院選挙でした。

◇ 私達は組織内候補である「たしろ かおる」を国政へ送ろう！」を合言葉にしてOBと現役が一生懸命闘いました。その結果、十一万三四八票を獲得、大勝利でした。JR総連・東労組の底力を見せられたと思っっています。私たち高崎地本OB会は「たしろかおる」をこれからも全力で支えます。

◇ JR東労組の組織破壊を目的に美世志会七名の弾圧を狙った浦和電車区事件に対して、東京高裁は「控訴棄却」という予想外の判決を出しました。美世志会は直ちに最高裁に上告し、現在闘っています。高崎地本OB会は美世志会七名全員の無罪を勝ち取るため、全力で取り組みます。何としても逆転無罪を勝ち取って、もう一度ハンドルを持って電車の運転をさせてやりたいと思っています。

◇ 運転部会の21名を「傷害罪」で訴えた長野の「T問題」もありました。高崎でも2名の仲間が訴えられ、全員がデッチ上げ告訴だと確信していましたが、当然にも不起訴になりました。これもJR東労組の闘いの勝利です。最後に私達は声を大にして叫びます。JR東労組の組合員で良かったと……。

高崎地本OB会 (T-I)

退職者連合「介護保険制度の見直し」で要請行う！

対政府要求を通常国会に上程前に連合生活福祉局へ

退職者連合は、一月二四日から開会した第一七七通常国会に提案される「介護保険制度見直し」について、退職者連合の対政府要求が反映されるよう「連合生活福祉局」に要請を行いました。

重要法案目白押しの通常国会

今通常国会の中で議論される重要法案は「二〇一一年度予算案」と「予算関連法案」および法人税五％引き下げの「税制改正関連法案」、三歳から中学生以下に一万三〇〇〇円、三歳未満に二万円支給する「子供手当法案」、郵政民営化・経営形態を見直す「郵政改革法案」等です。

しかし春の統一地方選挙や小沢民主党元代表の「証人喚問」問題等を睨みながらの国会運営が予想されています。

そのような中で、中高年齢者に大変関係の深い「介護保険制度の見直し」の法案が上程され、審議される予定になっています。

要求を連合生活福祉局に託し

介護保険制度は、一九九七年に「介護保険法」が成立してから二〇〇〇年四月

新春クイズの

当選発表！！

正解は **□頭弁論** でした。

多数のご応募ありがとうございました。1月25日、JR東労組本部会議室におきまして、大熊会長ほか5名の役員によって厳正な抽選を行い、応募総数189名の中から、下記の方々の当選を確認しましたので、発表致します。

1等(2名) 1万円のびゅう商品券

- ①富田良夫(東京)、②北村 操(横浜)

2等(3名) 5千円のびゅう商品券

- ①河井良之(千葉)、②横川 守(東京)、③佐藤幸夫(大宮)

3等(10名) 3千円のびゅう商品券

- ①清川信喜(盛岡)、②梶本正史(東京)、③島田俊男(新潟)、④町田文夫(長野)、⑤大高和男(大宮)、⑥林 和弘(八王子)、⑦鈴木直保(秋田)、⑧佐々木 等(仙台)、⑨田中 晃(横浜)、⑩水口浩一郎(高崎)

特別賞(15名) 千円の図書券

- ①三浦章男(大宮)、②小泉泰夫(八王子)、③北村 茂(長野)、④岡部常夫(新潟)、⑤矢島利之(高崎)、⑥中澤 功(横浜)、⑦遠藤 弘(盛岡)、⑧越川保男(千葉)、⑨片桐敬二(高崎)、⑩中村敏男(東京)、⑪菅生友義(仙台)、⑫田村英一(秋田)、⑬佐藤恭彦(盛岡)、⑭水野志朗(東京)、⑮前野憲治(水戸)

(敬称略)

☆ご当選おめでとうございます。賞品は2月15日までにお届けします。ご協力ありがとうございました。

「最終とりまとめ」に対する 退職者連合の主張

退職者連合は今回の「介護保険制度見直し」が、財源不足を背景にされており、給付の増額分を自己負担またはサービス削減で賄う内容になっていることから、「介護保険制度発足時の「介護の社会化」、「尊厳ある生活」の基本理念に反する見直しには反対であり、自己負担の引き上げは認めないと主張しています。

JR東労組OB会も退職者連合と

JR東労組OB会も、年々会員の平均年齢が高くなっており、現在、健康な人でもいつ何時、介護保険のお世話になるか分かりません。その時になって「介護保険制度の不備を嘆いても後の祭りです。OB会の皆様は、今通常国会に注目し、退職者連合と共に年金・医療・介護等の社会保障問題の取り組みに積極的に参加しましょう。

物価スライドによる年金支給減額に

総理大臣と厚労大臣に 抗議電報！

JR総連OB連絡会は年の瀬も迫った12月21日、物価スライドによる年金生活者の「年金支給額の減額」を示唆した菅直人内閣総理大臣と細川律夫厚生労働大臣に「年金減額反対、昨年のマニフェストにある、高齢者の生活安定を図る」公約はどこと行つた、弱者を裏切るな」と抗議電報を打ちました。

この「年金支給額の減額」は、一昨年の衆院選の民主党マニフェスト違反であり、年金生活の高齢者を苛める以外の何ものでもありません。

本部OB会もしっかりと民主党政権を監視し、これからも高齢者問題の前進のために取り組みを強化していきます。

果敢に闘った思い出の地で エルダー組合員として頑張っています

高崎地本・高崎鉄道サービス分會 金子 秀一
昨年一月、JR高崎鉄道サービス(株)・新前橋事業所に配属となり、清掃業務に従事することになりました。腰痛持ちの私としては、大変不安なスタートとなりました。

私のエルダー職場 職場紹介

案の定、二日間勤務して一〇日間休むという結果となりました。しゃがんだままの姿勢での仕事は腰が耐え切れず、

このままの状態では仕事を続けるのは無理ではないかと思ひ、多くの人に相談したり、お世話になる中で「桐生駅の業務なら二人仕事なので、自分のペースで出来るのではないか」とアドバイスをもらって、桐生派出所にお世話になることになりました。

業務内容は、ヘッドメイク・モップ掛け・電車の清掃なので、腰への負担が比較的少なく、現在も続けられています。また背伸びをしたり、正座をしたりと自分で工夫も出来るので、何とか続けています。

職場は、男子四名、女子二名の六名(社員二名、エルダー一名、パート三名)で行なっています。私は、十八歳で国鉄・桐生機関区に配属となり、燃料係として毎日石炭上げをしていました。その桐生の地で、退職に伴った第二の職場として勤務することになったのは、何か不思議な「縁」を感じます。

国鉄改革の中で桐生機関区を最後まで守った人東芝・タイハツ・三菱などへの外部出向・派遣で頑張った人など、あの当時の状況を思い出します。また足尾線廃止反対の闘いで、夜遅くまで仲間や沿線住民の人たちと話し合ったり、署名活動に賛同してもらった取り組みなど、全組合員が一丸となって創造的かつ果敢に闘いました。線路を守る闘いが国鉄労働者の職場と仕事を守る要求と、沿線住民の生活を守る要求とが結合し、大きな住民との絆が生まれて力強い連帯の闘いに発展しました。その闘いの成果が、今でも第三セクターになったわたらせ渓谷鉄道に脈々と息づいています。

そんな思い出の地で再び仕事ができることに喜びを感じ、JR東労組が勝ち取った「エルダー制度」を利用して、エルダー組合員(OB会員)として、いま頑張っています。